

「今日一日、楽しかったか？」

絵・ひやまぎやん

神奈川県川崎市の河川敷で中学1年生の男の子が殺害された事件に、誰もが胸を痛めたに違いない。家庭裁判所から少年を委託される身として、あらためて少年たちにしつかり心を向けようと、思いを新たにしたい。

今回の事件については、新聞・雑誌やテレビで「周りの大人たちが、彼の状況をきちんと把握していれば、未然に防げたのでは……」などと、報道されている。

青少年を預かり育てる立場にある者として、その日、子供が誰と何をして、どんな気持ちで過ごしたのかという情報を得ることが大切だと思う。

とはいえ、思春期を迎えると、大人と会話することさえ煩わしいと感じる子どもも少なくない。私どもの教会で非行少年を預かるとき、いくつかの「規則」を設けている。「朝はちゃんと起きるよ」「携帯電話やスマ

ートホンは持たないこと」などだ。

なかでも、重要なのが「食事は家族全員で取ること」。家庭の雰囲気、家族団欒を味わわせるために、これは外せない。いつも夕食の際に、少年たちに尋ねている。

「今日一日、楽しかったか？」

そう問いかけることで、仕事や人間関係など、彼らの状況を大まかではあるが把握できる。

素直に「楽しかった」と返してくれることもあるが、それはまれ。反応は、実にさまざまだ。

それでも、「楽しかったか？」と聞かれて、少年たちが比較的素直に反応するということも最近分かってきた。

「いつも通りですね」「まあまあです」「疲れました」などの返事は、特に心配する必要はない。

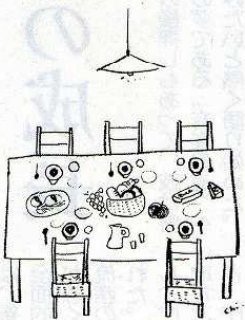
対して、「いや……」と曖昧だったり、「別に……」と素っ気ない言葉が返ってきたりしたときは、うまく聞いていないサインであることが多い。

その場合は、夕食後に二人きりで話をする。内容によって

は、ほかの人に聞かれたくないこともあるからだ。

すると、少年たちは「これから先のこと不安で……」「職場の人と折り合いが悪くて……」などと、胸の内を明かしてくれる。

人は誰でも一人では生きていけない。特に、人生経験が浅い少年たちは、悩み事を抱えやすい。大人が日々向き合い、じっくり話を聞いてやることで、彼らの幸福な人生の一步につながる。と確信する。



非行少年と ともに

「補導委託」30年の歩み

大畑道雄

本導分教会長